

「元気が出る経営： 女性と高齢者の雇用推進」



講演する白石真澄関西大学教授

白石真澄関西大学教授が講演

るなど政策支援も重要と指摘。

日本の出生率の低下について、諸外国の例を引き、戦争で負けたり、伝統的な価値観にとらわれている国に出生率の低下が目立つと、出生率が回復してきている国と低下している国を例にその比較を論じた。

女性を活用する企業は、業績が伸びるうえ、不祥事が起こりにくいという。リーマンショック以降の株価の低迷も女性活用に積極的な企業ほど利益率が伸び、多様な人材を活かすことで経営面に良い効果が出ていると解説。女性は執着力がない人が多いせいか、経営に対して「おかしなところはおかしい」と指摘できる資質を持っている。家庭でもすべての決定権は女性が持っているため、女性目線での商品開発の重要性はますます増えていく。女性の商品開発に対する目のつけどころは期待が大きい。

経済産業省は東証一部上場企業の中から、業種ごとに女性が働き続けられるための環境整備を進めている企業を公表している『なでしこ銘柄』を紹介し、「こういう企業の株は上がる」と推奨していることを紹介。女性の仕事と家庭の両立をいかに支援していくかを見える化して投資家に薦めていると、その

取り組みに言及。また、女性活用で有名な化粧品会社を例に「女性を活用することで、生産性向上、開発力強化、またPR効果と好循環を生んでいる」と紹介、「これもトップの意思次第でできること」と結論づけた。さらに付け加えて、評価制度を変えることが最も大切だとの考えを示した。

大企業に比較して規模の小さい企業の方が柔軟な働き方を用意できるとも指摘。

さらに高齢者の雇用、日本の大学で学び日本語が理解できる外国人の積極的な活用などにも触れた。また、安倍総理が成長戦略のなかで「2020年には産業分野はもちろんのこと生活分野を含めて今までの30倍ロボットを使っていこう」という計画を説明、この9月からはじまった『ロボット革命実現会議』を中心に、その実現に向けて動きだしたことを紹介した。(文責・事務局)

記念式典に先立ち、午後3時から関西大学政策創造学部教授の白石真澄氏を招き、「元気が出る経営：女性と高齢者の雇用推進」をテーマに記念講演会が開かれた。

白石講師は「今日は女性の活用を中心に話を進めたい」と前置きし、これからは4つの要因と対峙していく時代がくと指摘。

その4つの要因とは、①経営者は女性をどのように活用していくのか、②65歳定年制で高齢者をどう活用していくのか、③知的労働をする外国人をどのように社会に取り込んでいくのか、④ロボットをどう使っていくのか、と分析した。

日本はあと45年で大幅な人口減に見舞われる。日本の人口は3700万人減ると推定されるが、これは日本全体で3割に当たる。そして働き盛りは5割、著しい生産低下が懸念されている。その対応に最も重要なことは多様性であり、ダイバーシティーの実現だという。

女性活躍推進に当たって、白石氏は「企業の制度や女性の管理職比率など、各企業の女性活躍指数を見える化する」必要性を強調。がんばった企業には入札で優遇す



講演会場の模様